

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00601

研究課題名(和文) 日本技術哲学の総合研究と国際化

研究課題名(英文) General Research for Internationalization of Japanese Philosophy of Technology

研究代表者

直江 清隆 (Naoe, Kiyotaka)

東北大学・文学研究科・教授

研究者番号：30312169

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、日本の技術哲学を、思想史的、現代的観点から研究し、その全体像を明らかにすることにある。また、世界的水準の研究の発信や、リソースの公開を通じて、国内外において広く議論の基盤を形成することにある。日本の技術哲学として本研究が視野に入れているのは、西田幾多郎や三木清をはじめとする戦前期の技術哲学、および戦後、現代に至る展開である。日本の技術哲学は、外来思想と伝統思想、日本社会との対話のなかで、独自の思想として展開してきたという特徴がある。こうした格闘は現在でも変わるものではない。本研究を通じて現在に生きる視点を国際的な視点から確立することを試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の技術哲学として、創始期および戦後期の日本技術哲学としては、西田幾多郎、三木清、戸坂潤、和辻哲郎を、戦後期の論者としては、三枝博音、星野芳郎、中岡哲郎を取りあげ、現代のグローバルな哲学的課題に寄与しうる情報発信を行った。国際ワークショップの開催や国際日本哲学会でのワークショップを通じて、従来、宗教哲学を中心にされてきた日本哲学研究に対し、技術哲学を日本の固有の知的財産として世界的にアピールしていくとともに、今日に継承・発展させる基盤づくりがなされた。

研究成果の概要(英文)：This research aims to research the philosophy of technology in Japan from historical and contemporary perspectives and to clarify its overall picture. It also aims to form the basis for a wide-ranging discussion both domestically and internationally through the dissemination of world-class research and the publication of resources. As Japanese philosophy of technology, this study focuses on the philosophy of technology in the prewar period, including Kitaro Nishida and Kiyoshi Miki, and its development in the postwar period and up to the present day. The Japanese philosophy of technology is characterized by the fact that it has developed as an original thought in dialogue with foreign thought, traditional thought, and Japanese society. This struggle is no different today. Through this study, we have attempted to establish a perspective that is alive today from an international perspective.

研究分野：哲学

キーワード：京都学派 技術哲学 媒介理論 技術史

1. 研究開始当初の背景

近年の技術哲学では、近代技術を技術的合理性、自然支配といった特徴で理解する「本質主義」に代わり、1990年代の「経験論的転回」以降、技術の具体的な活動を対象にしてより微細な分析装置の構築が試みられてきた。議論の主流は技術的媒介や価値感応的デザインなどの代表される現在の技術に対する分析であるが、同時に、北米、オランダ、ドイツなどの中心地からスペイン語圏や中国への普及を一つの背景に、これまでの各文化圏での議論を見直そうとする動向も生まれている。本研究もこの動向に沿ったものである。

日本の技術哲学を国内外の研究分野にする上での困難は三つある。第一は日本哲学内部での議論の蓄積の欠如である。近年、「日本哲学」が固有の研究分野として認識され、国際的にも、International Association of Japanese Philosophy が活動を開始し、Springer 社からの Tetsugaku Companions to Japanese Philosophy シリーズの刊行がはじまるなど、研究環境が整備されつつある。しかし、従来の日本研究においては日本思想史・仏教史の研究が主流で、日本哲学研究が日本学の片隅に置かれてきたという事情も手伝って、技術哲学に関してはまとまった議論がなされるには至っていない。技術哲学を日本の固有の知的財産として継承・発展させ、その水準を世界的にアピールしていくには、日本哲学との連携がまず大きな課題である。第二は技術哲学における議論の断絶である。現在の技術哲学、技術倫理の研究は、上記の欧米における研究を土台に行われてきているが、現代技術史研究会などで継承されてきた戦前・戦後の技術哲学・技術論とは伝統が途切れている。このため、日本の技術哲学と親近性の高い技術的媒介やエコメーションなどの欧米での議論に関しても、日本の伝統と関連付けて議論を進展させることが困難な状況にある。日本の技術や社会を見据えた独自の技術哲学の議論を構築していくためには、日本の技術哲学全体を見わたすことができる、体系だった研究が必要であると考えられる。第三は、海外との交流におけるテキストの問題である。現在のところ、西田および和辻哲郎についてはいくらかの英訳、独訳があるものの宗教関連のものに偏りがちであり、また例えば三木清や戸坂潤についてすら翻訳された文献は極めて限られている。日本の技術哲学の国際的研究を進める上では、英語圏や中国語圏の研究者間で、日本の技術哲学の原典および基礎的研究文献を信頼できる形で共有したうえで、それらを国際的な視点から吟味できるようにすることが不可欠となっている。

こうした現状を踏まえるならば、日本の技術哲学が思想的、現代的観点からみていかなる意義があり、いかなる継承が可能であるかについて総合的な研究を行うことが重要であると考えられる。もちろん、この問いはアナクロニズムであってはならず、日本の社会やとりわけ技術教育に向けて、日本の現状に即した技術哲学をいかにして構築するかという視点から提起され、また、海外との交流に向けていかにして世界的な理解と関心を喚起しうるかという視点から提起される必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本で独特な発展を遂げてきた技術哲学を、思想的、現代的観点から総合的に研究することでその全体像を明らかにするとともに、世界的水準の研究を発信し、今後の研究に資するリソースを蓄積・公開することを通じて、日本の技術哲学を国内外において広く議論する基盤を形成することにある。

より具体的に言うならば、本研究の目的は以下の点にある。

(1) 日本の技術哲学を総合的に取り扱うこと。従来行われてきた属人的なモノグラフ的研究ではなく、日本の技術哲学が全体としていかなる展開をしてきたかを研究するが、戦前とともに戦後の技術哲学・技術論も扱う。戦前、戦後の技術哲学・技術論に関しては、当時の日本哲学や日本技術の状況、欧米の技術哲学などとの思想的、比較思想的な検討を行い、日本の技術哲学の特性がどこにあったのかを明らかにする。

(2) 現代の技術哲学の視点から日本の技術哲学を評価し、新たな技術哲学の構築に向かうこと。思想史的研究にとどまらず、日本の現実からの技術哲学を構想すること。そのため、現象学や現代のロボット哲学、技術者倫理教育など、日本の技術哲学を土台にして現代のグローバルな哲学的問題に関して情報発信できる領域に積極的に取り組むことによって、21世紀の開かれた日本技術哲学の可能性を模索する。

(3) 日本の技術哲学に対する世界的な理解と関心を喚起すること。そのため、現在までは圧倒的に不足してきた日本の技術哲学に関する重要文献の選定と信頼できる翻訳を整備し、研究者ネットワークを駆使して世界に向けて公開して、日本の技術哲学への潜在的な関心を実質的な研究の蓄積へと転化させる。

(4) 以上のことを通じて、エスノフィロソフィーの一つとしての研究にとどまらない日本技術哲学の可能性を検証し、現在に生きる日本の技術哲学の視点を確立して国内に発信するとともに、より普遍的な視野を獲得するべく国際的な視点から吟味し、現代の技術哲学に切り込む可能性を切り開く

3. 研究の方法

まず研究開始にあたり、国内と国外において専門研究者によるワークショップ"Japanese Philosophy of Technology -- Past and Present"を開催し、現代の世界的動向の中で戦前から現在に至る技術哲学にいかなる意義が見いだされ、それを土台にして現代の問題に関していかなる独自の貢献の可能性があるかについて検討した。また、本研究課題の基軸を定めるため、3rd Dutch-Japanese Workshop in Philosophy of Technology を共同開催し、問題意識の共有を図り、ネットワークの基盤づくりを行った。

(1)創始期および戦後期の日本技術哲学研究では、分担して主な論者を軸に、思想的独創性と日本哲学史上の位置づけ、当時のドイツ及びフランスの技術哲学(デザウアーら)との影響関係や比較、射程にあった技術や社会の状況、技術による行為の形の形成論などと現代の議論との内的連携、などを研究する。創始期の哲学者としては、西田幾多郎、三木清、戸坂潤、和辻哲郎を、戦後期の論者としては、三枝博音、星野芳郎、中岡哲郎を取りあげた。本研究には、国内外の日本哲学、技術哲学の専門研究者により、各個別分野での研究活動の集積を試みた。上記の作業と並行して、それぞれの論者の著作から現代のグローバルな哲学的課題に独自の情報発信をなすうる問題のそれぞれについて、プラットフォーム形成に必要な原典や基礎的文獻の確定を行った。また、そのうち基本的なものについて実際に英語への翻訳を行い、その成果についてワークショップで検証作業を行った。

(2)現代の日本技術哲学研究では、分担して現代日本の主な潮流について探索した。潮流としては、さしあたり、日本の特徴でもある現象学的潮流、ロボット哲学・倫理のほか、環境主義的(とりわけ生態現象学的)アプローチ、原子力とリスク論、技術者倫理教育を候補としたが、適宜差替および補充した。作業は、たんなる外来思想のキャッチアップにはつきないそれらの思想的独自性・射程とその背景となる日本の思想的、社会的特質とを剔抉することに主眼を置いたが、創始期・戦後期の日本技術哲学との関係およびそれを土台にして現代の問題に関して情報発信しうる可能性の所在にとりわけ留意した。

(3)「現代哲学としての日本技術哲学」「日本技術哲学の翻訳と研究の発展」などのテーマを設定して国内の関連分野の研究者とのシンポジウム、海外の研究者とのシンポジウムを開催し、1)および2)を統合して、日本哲学ないし日本の技術哲学を基礎として現代の技術哲学の課題について議論し、日本の技術哲学のアクチュアリティを明らかにした。

(4)研究の成果として、分担者それぞれの論文、著作の他、日本国内と国外において専門研究者によるワークショップを開催し、日本哲学に関する問題状況を共有した。1)で述べた翻訳を含む、日本の技術哲学に関する英語版の本の編集を進めた。

4. 研究成果

創始期の日本技術哲学に関しては、西田幾多郎、三木清、戸坂潤、和辻哲郎、関連する戦後初期の論者として三枝博音に関して研究を進めた。日本哲学の研究では古典研究が軸となっている感があるが、本研究では、歴史的世界の生成、自然と人間関係を「媒介」の概念によって一括りにすることで、それぞれの論者の特異性と、現代の技術哲学における媒介理論との橋渡しなどをすることを試みた。また、日本の技術哲学の代表者(西田、三木、和辻、三枝、中岡)について代表的な著作の抄訳を行った。以上の成果は、International Association of Japanese Philosophy におけるワークショップや、The 23rd biennial Conference of Philosophy of Technology における複数のパネル、編纂中の英語の図書において発表された(ないし公表予定である)。

現代の日本技術哲学研究では、分担して現代日本の主な潮流について研究史、各分担者ごとに成果を発表した。潮流としては、現象学的潮流、ロボット哲学・倫理のほか、生態現象学的アプローチ、中岡哲郎らの熟練の技術哲学、戦後日本の技術史と技術論について研究を進めた。このような研究を通じて、技術について(あるいは技術哲学について)、文化を越えた普遍性とそれぞれの文化に固有のローカル性が明らかにされ、日本の技術哲学の今日的な位置づけが解明された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 河野哲也	4. 巻 第120号
2. 論文標題 科学・真理と民主主義の関係とその教育的意味	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育哲学研究	6. 最初と最後の頁 39-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 犬塚悠	4. 巻 69
2. 論文標題 和辻倫理学の環境倫理的・技術倫理的意義 環境を内包する人間存在の倫理学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 倫理学年報	6. 最初と最後の頁 40-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久木田水生	4. 巻 21
2. 論文標題 人工知能は知識を持てるか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 こころの未来	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木俊洋	4. 巻 19
2. 論文標題 技術的媒介の倫理 - 『科学技術に同行する倫理学』の枠組み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 プロセス思想	6. 最初と最後の頁 20-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原麻有子	4. 巻 2020年1月号
2. 論文標題 広がる翻訳の思想への試論 翻訳の身体性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 95-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kojiro Honda	4. 巻 -
2. 論文標題 Use of Robots in Healthcare: the Japanese Experience and the Relevance of Culture	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PONTIFICIA ACADEMIA PRO VITA 2019 Proceedings	6. 最初と最後の頁 in printing
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本田康二郎	4. 巻 46
2. 論文標題 模倣から対話へ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 金沢医科大学教養論文集	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hidekazu Kanemitsu	4. 巻 XXXVII No. 9:
2. 論文標題 Relations between Humans and Care Robots: Case Study and Philosophical Inquiry	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 NEU (by Associazione nazionale infermieri e infermiere delle neuroscienze, Italy)	6. 最初と最後の頁 20-28.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金光秀和	4. 巻 793
2. 論文標題 職業人としての倫理観を育成するための教育手法 大学における教育実践からの考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 産業と教育	6. 最初と最後の頁 2-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木原英逸	4. 巻 15
2. 論文標題 政治を語って政治を切り詰める 「科学技術社会論」における「政治」理解の狭さについて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科学技術社会論研究	6. 最初と最後の頁 47-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ema Arisa, Osawa Hirotaka, Saijo Reina, Kubo Akinori, Otani Takushi, Hattori Hiromitsu, Akiya Naonori, Kanzaki Nobutsugu, Kukita Minao, Komatani Kazunori, Ichise Ryutaro	4. 巻 107
2. 論文標題 Clarifying Privacy, Property, and Power: Case Study on Value Conflict Between Communities	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the IEEE	6. 最初と最後の頁 575 ~ 581
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/JPROC.2018.2837045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久木田水生	4. 巻 1230
2. 論文標題 人を評価する人工知能が人間同士の関係に与える影響とその倫理的含意	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 三田評論	6. 最初と最後の頁 40-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久木田水生	4. 巻 第39巻3号
2. 論文標題 人工知能の倫理的課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 あいみっく	6. 最初と最後の頁 50-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久木田水生	4. 巻 第50巻第9号
2. 論文標題 二一世紀の可愛い機械のトルコ人たち	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 207-214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久木田水生	4. 巻 第49号
2. 論文標題 ICTがもたらすコミュニケーションの変容	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中部哲学会年報	6. 最初と最後の頁 27 - 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木俊洋	4. 巻 2
2. 論文標題 特集 1 オックスフォードハンドブックの紹介 6. 現象学の視点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 環境倫理	6. 最初と最後の頁 45 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計49件（うち招待講演 16件 / うち国際学会 26件）

1. 発表者名 Tetsuya Kono
2. 発表標題 The Political Structure of the Lifeworld: Institution and Technology
3. 学会等名 International Conference on "Phenomenology and the Political(The Chinese University of Hong Kong) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tetsuya Kono
2. 発表標題 Extended mind and environmental approach
3. 学会等名 Workshop "Japanese Philosophy of Technology -- Past and Present (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Inutsuka Yu
2. 発表標題 Individuality and Sociality of the Subject in Merleau-Ponty and Watsuji
3. 学会等名 International Society of East Asian Philosophy (Panel: Proposing New Perspectives on "Intercorporeality" from East-Asian Philosophical Viewpoint) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kyle Shuttleworth, Inutsuka You
2. 発表標題 Watsuji: Self, World, and Knowledge
3. 学会等名 5th Annual Conference of the European Network of Japanese Philosophy, (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takashi, Inutsuka, James W. Heisig
2. 発表標題 Philosophy for Youngsters,
3. 学会等名 5th Annual Conference of the European Network of Japanese Philosophy, (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 犬塚悠
2. 発表標題 和辻倫理学の環境倫理的・技術倫理的意義 環境を内包する人間存在の倫理学
3. 学会等名 日本倫理学会第70回大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久木田水生
2. 発表標題 情報技術による人間の認知の拡張
3. 学会等名 日本ロボット学会学術講演会オープンフォーラム 「稲見 ERATO 自在化身体プロジェクト」 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木俊洋
2. 発表標題 新技術の評価と職人的熟練知の意義
3. 学会等名 , 科学技術社会論学会2019年度研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木原英逸
2. 発表標題 市民科学の誕生: STSの思想史のために
3. 学会等名 日本科学史学会第66回大会口頭発表
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上原麻有子
2. 発表標題 都学派最盛期の『哲学研究』を支えた中井正一
3. 学会等名 第36 回日本哲学史フォーラム: 座談会「日本におけるアカデミズムの哲学史 『哲学雑誌』と『哲学研究』の比較分析
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 UEHARA Mayuko
2. 発表標題 L' idee de l" ' intelligence de la nature de la nature" dans la philosophie moderne japonaise
3. 学会等名 La nature pense-t-elle ? (Colloque international) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上原麻有子
2. 発表標題 中井正一の技術哲学と機械美
3. 学会等名 European Network of Japanese Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 UEHARA Mayuko
2. 発表標題 The Role of Tetsugaku Kenkyu in Japanese Philosophy in 1930s'
3. 学会等名 International Association for Japanese Philosophy: 2019 Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上原麻有子
2. 発表標題 中井正一の「機械美の構造」
3. 学会等名 第6回日中哲学フォーラム (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金光秀和
2. 発表標題 現代の技術哲学は何を問題としているのか
3. 学会等名 ヒューマンインターフェースシンポジウム2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kanemitsu, H.
2. 発表標題 Robot as others: A Postphenomenological Consideration
3. 学会等名 Society for Social Studies of Science Annual Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村田純一
2. 発表標題 技術の創造性：技術の哲学と倫理
3. 学会等名 日本技術士会 中部本部冬季講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kiyotaka Naoe
2. 発表標題 Trust in Human - Robot - Interaction
3. 学会等名 The 21st Conference of the Society for Philosophy and Technology（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kiyotaka Naoe
2. 発表標題 Takahashi Satomi's Dialectic
3. 学会等名 高橋里美国際研究会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 直江 清隆
2. 発表標題 廣松哲学と一人称的視点
3. 学会等名 第6回日中哲学フォーラム（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上原麻有子
2. 発表標題 中井正一の哲学における芸術と技術の共演
3. 学会等名 Centre for Advanced Research of European Philosophy Conference: 'Why the Kyoto School Today?' (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kiyotaka Naoe
2. 発表標題 How can we Relate to Things that Relate to us –Expression of "Robots
3. 学会等名 3rd Dutch-Japanese Workshop on Philosophy of Technology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kiyotaka Naoe
2. 発表標題 Technology and Collective tacit Knowledge
3. 学会等名 4S (Society for Social Studies of Science) Sydney 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 直江清隆
2. 発表標題 人工知能の導入と人間関係 医療における意思決定を例にした試論
3. 学会等名 応用哲学会第10回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kojiro Honda
2. 発表標題 Use of Robots in Healthcare: the Japanese Experience and the Relevance of Culture
3. 学会等名 Roboethics: Humans, Machines and Health (Pontifical Academy for Life 2019 (国際学会))
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kojiro Honda
2. 発表標題 Potential of Body-conservatism
3. 学会等名 Phtr2018 Philosophy of Human-Technology Relations (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kojiro Honda
2. 発表標題 Robotics and Cultural Inheritance
3. 学会等名 Symposium: Robots and Artificial Intelligence in Contemporary Japanese Society (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kojiro Honda
2. 発表標題 Cultural Inheritance Mediated by Social robots?
3. 学会等名 3rd Dutch-Japanese Workshop on Philosophy of Technology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kojiro Honda
2. 発表標題 Body-conservatism
3. 学会等名 ETHConf2018: Investigating transhumanisms and their narratives (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 本田康二郎
2. 発表標題 軍事研究と科学の公有主義：理化学研究所と技術院の比較を通して考える
3. 学会等名 電子情報通信学会 総合大会 企画セッション 「科学技術者コミュニティと軍事研究：軍民両用技術と科学技術の価値（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本田康二郎
2. 発表標題 科学の倫理と医療倫理～医療倫理の難しさはどこにあるのか～
3. 学会等名 日本ペインクリニック学会第52回大会 専門医指導者講習会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hidekazu Kanemitsu
2. 発表標題 Robots and our intimacy with technology
3. 学会等名 Human-Technology Relations: Postphenomenology and Philosophy of Technology 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金光秀和
2. 発表標題 技術哲学の問題圏と課題
3. 学会等名 応用哲学会第10回年次研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木俊洋
2. 発表標題 テクノロジーとしての農地
3. 学会等名 応用哲学会第10回年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木俊洋
2. 発表標題 集团的暗黙知と『弱いロボット』
3. 学会等名 応用哲学会第10回年次研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toshihiro Suzuki Tsuyoshi teramoto
2. 発表標題 Environment, Agriculture, and Technology
3. 学会等名 3rd Dutch-Japanese Workshop on Philosophy of Technology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木俊洋
2. 発表標題 我々はどちらの物語を選ぶのか? - スマート農業と里山農業
3. 学会等名 科学技術社会論学会第17回年次研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tetsuya Kono
2. 発表標題 Urbanization and the Wilderness
3. 学会等名 4S (Society for Social Studies of Science) Sydney 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tetsuya Kono
2. 発表標題 Experience in the natural environment and Education for Sustainable Development
3. 学会等名 Workshop: Future of Education in Asia: Science, Technology, Engineering and Ethics
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河野哲也
2. 発表標題 AI社会を生きる子どもと考える力
3. 学会等名 板橋教育アカデミー (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河野哲也
2. 発表標題 拡張した心と拡散した言語
3. 学会等名 AIと文化の研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Minao Kukita
2. 発表標題 How could we prevent information from dividing our society?
3. 学会等名 ESCR-JST Joint Workshop（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Minao Kukita and Makoto Kureha
2. 発表標題 AI and Science
3. 学会等名 3rd Dutch-Japanese Workshop on Philosophy of Technology（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久木田水生
2. 発表標題 軍民両用技術と科学技術の価値：技術決定論と社会構成主義の議論を踏まえて
3. 学会等名 電子情報通信学会2019年総合大会企画シンポジウム「科学技術者コミュニティと軍事研究：民両用の価値」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久木田水生
2. 発表標題 コミュニケーションの過去・現在・未来：ヒューマン・エージェント・インタラクションのもたらす新しいコミュニケーションとその倫理的課題
3. 学会等名 電気学会倫理委員会全国大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久木田水生
2. 発表標題 人はなぜ道具を使うのか：遺伝子とミームの複雑なダンス
3. 学会等名 進化経済学会2018年オータムカンファレンス（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久木田水生
2. 発表標題 テクノロジーがデザインする人と人の距離：その倫理的含意
3. 学会等名 社会情報学会学会大会，シンポジウム「AIが"媒介"する社会」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久木田水生
2. 発表標題 新しい科学技術は労働をどのように変化させるか
3. 学会等名 日本産業衛生学会第91回大会、メインシンポジウム1「人と科学技術の連鎖」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久木田水生
2. 発表標題 ソーシャルテクノロジーへの賛否両論：あるいはテクノロジーの中立性について
3. 学会等名 応用哲学会第10回年次研究大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 稲葉振一郎、大屋雄裕、久木田水生、成原慧、福田雅樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 373
3. 書名 人工知能と人間・社会	

1. 著者名 Uehara Mayuko	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 749
3. 書名 Gereon Kopf(ed.), The Dao Companion to Japanese Buddhist Philosophy	

1. 著者名 Uehara Mayuko	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Rowman & Littlefield International	5. 総ページ数 289
3. 書名 Krummel, John Wesley (ed.), Contemporary Japanese philosophy : a reader	

1. 著者名 Junichi Murata	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 223
3. 書名 Kwok-Ying Lau and Thomas Nenon(ed.), Phenomenology and the Arts: Logos and Aisthesis	

1. 著者名 直江 清隆	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 326
3. 書名 盛永審一郎, 松島哲久, 小出泰士編 いまを生きるための倫理学	

1. 著者名 直江清隆	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 856
3. 書名 『社会思想史事典』(「科学政策」「エコロジー」)	

1. 著者名 村田純一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ぷねうま舎	5. 総ページ数 323
3. 書名 味わいの現象学 知覚経験のマルチモダリティ	

1. 著者名 ウェンデル・ウォラック、コリン・アレン著、岡本慎平、久木田水生訳	4. 発行年 2018年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 324
3. 書名 ロボットに倫理を教える モラル・マシーン	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Dutch-Japanese Workshop in Philosophy of Technolog http://www2.sai1.tohoku.ac.jp/~k4naoe/index.html
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	久木田 水生 (Kukita Minao) (10648869)	名古屋大学・情報学研究科・准教授 (13901)	
研究分担者	村田 純一 (Muarta Junichi) (40134407)	立正大学・人文科学研究科・研究員 (32687)	
研究分担者	長滝 祥司 (Nagataki Shoji) (40288436)	中京大学・国際学部・教授 (33908)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	本田 康二郎 (Honda Kojiro) (40410302)	金沢医科大学・一般教育機構・准教授 (33303)	
研究分担者	上原 麻有子 (Uehara Mayuko) (40465373)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	金光 秀和 (Kanemitsu Hidekazu) (50398989)	法政大学・人間環境学部・教授 (32675)	
研究分担者	木原 英逸 (Kihara Hidetoshi) (60204955)	国土舘大学・政経学部・教授 (32616)	
研究分担者	河野 哲也 (Kono Tetsuya) (60384715)	立教大学・文学部・教授 (32686)	
研究分担者	藤木 篤 (Fujiki Atsushi) (80609248)	神戸市看護大学・看護学部・准教授 (24505)	
研究分担者	鈴木 俊洋 (Suzuki Toshihiro) (80645242)	崇城大学・総合教育センター・教授 (37401)	
研究分担者	犬塚 悠 (Inutsuka Yu) (80803626)	名古屋工業大学・工学(系)研究科(研究院)・准教授 (13903)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Workshop “ Japanese Philosophy of Technology -- Past and Present	開催年 2019年 ~ 2019年
--	----------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------